

シラバス	
科目名	企業論
担当者名	三谷 干城
授業概要・方法等	「企業における仕事と求める人材」 車に搭載するコントロールユニット、センサ、アクチュエータの開発や設計を30年以上担当してきて、各局面における現在の設計者の解決能力不足に不安を持っている。これから社会にでる学生が、仕事への取り組み方・考え方・心構えを会得し、少しでも早い時期に会社を理解し、自分の能力を社会に発揮できるよう指導する。自分の頭で考え、それをきちんと発言でき、異なる意見と議論する中で自分の考えを磨いていける柔軟で自立的な学生を育てることを目標とする。内容は一般教科書にない講師の考え方、経験から生まれたノーハウ的要素を中心とし、対話やプレゼンの発表練習などもふんだんに取り入れ、学生の成長度合いを確認しながら、活発な生きた講義をしたい。{プロジェクターを用いた講義とし、学生の種々な個人相談にも応じ、アドバイスをする。}
学習・教育目標および到達目標	自分自身の考え方をもち、それを文書または口頭で発表できるレベルを目標とする。他の意見との交流で、自分の考えをさらにブラッシュアップ出来れば、なお望ましい。 この科目の単位修得により以下の項目の知識と能力を身につける。 1.エンジニアとしての素養を身につける。 2.論理的な思考ができ、他との議論にきちんと対応できる この科目の単位修得は電気電子工学科総合エレクトロニクスコースで設定した学習・教育目標D、Eの達成に主体的に関与している。
教科書	第1回目の講義の時、有償配布する。「大学生のためのエンジニア入門」(早稲田出版、1500円+消費税)
関連科目	電気計測、半導体工学、電子デバイス
試験方法	定期試験は行わないが、最終回にレポートを作成し、提出してもらう。この際、教科書・ノート・電卓・辞書等の持込を認める。レポートのテーマは作成の時に発表する。
成績評価基準	毎回の授業時の意見発表回数、内容、内容の質の変化(向上度合い)などによる評価(40%)、講義中1回の「ユニークレポート」の提出(30%)、最終回に作成したレポートの内容評価(30%)のウエイト評価とする。尚授業において、Disturbがあれば減点し、協力行為は加点する。
研究室 e-mailアドレス	e-mailアドレス等は、講義の際、必要な人に連絡する。
オフィスアワー	金曜日2～4限(10:40～16:20)
第1回 <タイトル>	特別講義の進め方説明及びアンケートの記入
内容	授業のねらい・目的・進め方の説明及び学生との意見交換により、講義の進め方をきめる。同時にアンケートで講義を受ける目的や講義への期待を明確化し、以降の講義に反映する。
第2回 <タイトル>	会社の一年はこう動く「ある開発管理者の目」
内容	四月から始まる会社のスケジュールと、会社を動かしている四つの要素について具体的に講義をする。この回にグループ分けを行い、今後の開発設計トレーニング(実習)の準備に入る。
第3回 <タイトル>	会社の組織はこう動く「組織は生き物」
内容	会社の一般的な組織とその役割、及び組織に真に求められるものは何か、また生きた組織・死んだ組織などについて講義をする。
第4回 <タイトル>	開発入門(新製品開発への近道) I 「製品開発は会社の命」
内容	講師の専門である新製品開発に関し、自らの知恵と経験と実績からどのようなアプローチをし、かつ取り組めば成功に近づけるかを詳細に講義をする。
第5回 <タイトル>	開発入門(新製品開発への近道) II
内容	講師の専門である新製品開発に関し、自らの知恵と経験と実績からどのようなアプローチをし、かつ取り組めば成功に近づけるかを詳細に講義をする。
第6回 <タイトル>	設計・VA入門(取り組みのポイント)「良い設計は会社を繁栄させる」
内容	設計及びVA(原価低減)活動について、盲点になりやすいところを具体例に分かりやすく講義をする。
第7回 <タイトル>	特許の書き方「世界で生き残る日本の戦略は知財権」
内容	特許をとるのは面白かつ簡単であることを理解し、とりにくい特許の書き方を指導する。

第8回 <タイトル>	企業内論文(レポート)の書き方「上司はここを見る」
内容	会社にはどんな種類の資料があり、読む人を納得させるにはどんなところに注意して書けば良いかを指導する。
第9回 <タイトル>	営業活動(受注成功例・失敗例)「市場は戦国時代」
内容	講師のグローバルな営業活動実績から事例を分析し、成功の秘訣を話す。
第10回 <タイトル>	企業は生きている「企業はこう変わる、あなたはこう変わる」
内容	国際的なうねりの中で企業は生き残りをかけて変わろうとしている。その現状をビデオを使って紹介し、認識する。
第11回 <タイトル>	開発設計トレーニング(実習) I
内容	テーマを与えて新製品の開発や設計を実際に試みる。開発へのアプローチの方法や実践・発表などの実習により、考える力やプレゼンテーション力を養成する。
第12回 <タイトル>	開発設計トレーニング(実習) II
内容	各グループごとに発表し、質疑応答や講師およびTAがコメント述べる。班のリーダーは他の班の発表を採点する。
第13回 <タイトル>	開発設計トレーニング(実習) III
内容	各グループごとに発表し、質疑応答や講師およびTAがコメント述べる。班のリーダーは他の班の発表を採点する。リーダー採点の獲得ポイントの多い上位チームを発表し、なぜ高いポイントを獲得できたかを分析する。
第14回 <タイトル>	企業はあなたに何を求める「さあ、あなたはこうする？」
内容	企業があなたに求めるものは何か、あなたは何をすべきかをいっしょに考える。受講後の感想や希望をアンケートする。
第15回 <タイトル>	レポート作成
内容	試験は実施せずレポート作成のみ、テーマは当日出題配布(正解のない設問)。